



## 2021年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年5月14日

上場会社名 株式会社フォーサイド 上場取引所 東  
 コード番号 2330 URL https://www.forside.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 根津 孝規  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 飯田 潔 TEL 03 (6262) 1056  
 四半期報告書提出予定日 2021年5月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年12月期第1四半期の連結業績（2021年1月1日～2021年3月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第1四半期	1,097	25.4	29	—	30	—	56	—
2020年12月期第1四半期	874	8.3	△105	—	△66	—	△344	—

(注) 包括利益 2021年12月期第1四半期 52百万円 (—%) 2020年12月期第1四半期 △369百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第1四半期	1.72	—
2020年12月期第1四半期	△10.59	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期第1四半期	3,837	1,131	29.5	34.76
2020年12月期	3,841	1,095	28.1	33.16

(参考) 自己資本 2021年12月期第1四半期 1,131百万円 2020年12月期 1,079百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年12月期	—	—	—	—	—
2021年12月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 2021年12月期の配当予想は今後の業績見通し等を踏まえて判断することにしていないため未定であります。

### 3. 2021年12月期の連結業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,206	4.2	110	—	109	—	124	—	3.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期1Q	32,557,704株	2020年12月期	32,557,704株
② 期末自己株式数	2021年12月期1Q	17,014株	2020年12月期	16,394株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期1Q	32,540,987株	2020年12月期1Q	32,542,334株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束するものではありません。実際の業績等は今後の様々な要因によって予想と大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予測などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな持ち直しの兆しが見られましたが、2度目の緊急事態宣言が発出されたことで、再び経済活動に制限がかかることとなり、雇用環境の悪化や企業収益の大幅な減少が懸念される等、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの事業領域であるプライズ事業を含むアミューズメント市場におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による営業休止や営業時間の短縮は概ね解消されつつありますが、外出自粛要請やコロナ禍での生活・行動様式の変化を受け、来店者数や購買意欲の回復にはまだまだ時間を要するものと予想されます。住宅市場におきましては、2021年3月の新設住宅着工戸数が前年同月比1.5%の増加となり、前年同月比で21ヶ月ぶりの増加となりました。また、貸家着工戸数においても、前年同月比で31ヶ月ぶりの増加となりましたが、今後の推移を引き続き注視していく必要があります。

このような経済状況の中、当社グループにおいては、主力事業であるプライズ事業・不動産関連事業・投資銀行事業の収益力を強化し確固たる経営基盤の確立に努めるとともに、不採算事業の整理、事業ポートフォリオの最適化を図り、収益改善に努めてまいりました。

プライズ事業では、既存商品の受注・販売に注力するとともに、新たなキャラクター版権の許諾を受け、商品化の準備を進めてまいりました。不動産関連事業では、時差出勤の推進、オンラインで完結できる申込みシステムを採用する等、コロナ禍での業務の効率化を一層推し進め、投資銀行事業では、前連結会計年度から進行中であった案件の早期成約を目指し、折衝を重ねてまいりました。また、第1四半期連結累計期間において、新株予約権戻入益16,000千円、映像制作事業の事業譲渡益15,538千円を特別利益として計上しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の営業収益は1,097,598千円（前年同期比25.4%増）、営業利益は29,178千円（前年同期は営業損失105,234千円）、経常利益は30,548千円（前年同期は経常損失66,882千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は56,125千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失344,668千円）となりました。

セグメント別の経営成績は次の通りであります。

## ① プライズ事業

プライズ事業につきましては、株式会社ブレイクがクレーンゲーム機等のプライズゲーム用景品の企画・製作・販売を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、人気のキャラクター商品を多く取り扱ったことにより、売上は好調に推移し、売上高、セグメント利益ともに、前年の水準を大幅に上回って推移いたしました。

以上の結果、売上高は613,793千円（前年同期比62.9%増）、セグメント利益は40,031千円（前年同期比421.7%増）となりました。

## ② 不動産関連事業

不動産関連事業につきましては、日本賃貸住宅保証機構株式会社が家賃保証業務及び物件管理業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、営業活動に一定の制約を受けましたが、引き続き民法改正が追い風となり、新規契約者数は堅調に推移いたしました。加えて、保証引受時の審査を慎重に行い、管理回収部門においては公的支援制度の案内を行う等、状況に応じた顧客管理に努めたことが業績に寄与し、家賃滞納者の減少、回収率の向上により、貸倒引当金繰入額は大幅に減少しております。また、前連結会計年度において、当社連結グループの不動産関連事業を統合したことによる経営の合理化・効率化が進みました。

以上の結果、売上高は353,978千円（前年同期比2.2%増）、セグメント利益は56,284千円（前年同期はセグメント損失8,487千円）となりました。

## ③ 投資銀行事業

投資銀行事業につきましては、フォーサイドフィナンシャルサービス株式会社がM&Aのアドバイザー業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、前連結会計年度から進行中の案件を中心に成約を目指してまいりましたが、コロナ禍の影響により交渉が長期化する等、案件の成約件数、成約金額とも低調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は7,940千円（前年同期は売上高なし）、セグメント損失は10,722千円（前年同期はセグメント損失32,088千円）となりました。

④コンテンツ事業

コンテンツ事業につきましては、株式会社モビぶっくが電子書籍配信サイト「モビぶっく」の運営を行い、フォーサイドメディア株式会社が映像制作事業を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、外出自粛等により自宅で過ごす時間が増えたことで電子書籍の需要増加が継続しております。映像制作事業においては、コロナ禍の影響により、案件の減少や制作コストの高止まりが続くなか、当社グループ内での事業の選択と集中を進める観点から、当該事業の今後の事業展開について慎重に検討をした結果、2021年1月31日付けで事業譲渡が完了し、本事業から撤退しております。

以上の結果、売上高は65,147千円（前年同期比30.1%減）、セグメント利益は1,354千円（前年同期はセグメント損失5,039千円）となりました。

なお、映像制作事業を除外して経営成績の前年同期比較を行いますと、売上高は37,437千円（前年同期比6.3%減）、セグメント利益は4,074千円（前年同期比6.6%増）となりました。

⑤イベント事業

イベント事業につきましては、株式会社ブレイクが各地の大型商業施設の催事場にて著名なコンテンツの展示販売を中心に行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、予定していたイベントの中止や延期はあったものの、感染症対策を講じた上で開催されるイベントも増えており、緩やかではありますが回復の兆しが見られています。

以上の結果、売上高は23,837千円（前年同期比10.1%増）、セグメント損失は7,745千円（前年同期はセグメント損失5,995千円）となりました。

⑥マスターライセンス事業

マスターライセンス事業につきましては、株式会社マーベラスアークが音楽関連事業を行い、フォーサイドメディア株式会社が出版事業を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、引き続きオンラインでの事業展開を中心とした活動を行っていましたが、グループの解散や休止に伴い、売上高は低調に推移いたしました。出版事業においては、女子小中学生向け雑誌Cuugal（キューガル）において、YouTubeでの活動を積極的に進め、媒体の認知向上に取り組んでおります。

以上の結果、売上高は32,654千円（前年同期比11.3%減）、セグメント損失は11,988千円（前年同期はセグメント損失11,358千円）となりました。

⑦その他の事業

その他の事業においては、主にフォーサイドフィナンシャルサービス株式会社が金融事業を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、延滞債権の回収に注力し、貸付金の回収に努めました。

以上の結果、売上高は246千円（前年同期比4.4%増）、セグメント利益は171千円（前年同期比6.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①総資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて3,695千円減少し3,837,640千円となりました。主な要因といたしましては、代位弁済立替金が52,254千円増加したものの、受取手形及び売掛金の減少50,621千円及び貸倒引当金の増加45,456千円が発生等によるものであります。

②負債

当第1四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べて39,869千円減少し2,706,293千円となりました。主な要因といたしましては、借入金の減少31,964千円等によるものであります。

③純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて36,174千円増加し1,131,347千円となりました。主な要因といたしましては、新株予約権の権利行使期間満了に伴い、新株予約権が16,000千円減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益56,125千円を計上したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年12月期の連結業績予想につきましては、「2020年12月期決算短信」における通期の業績予測から変更しておりません。

なお、本資料に記載されている業績予測等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績等は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,046,859	1,055,858
受取手形及び売掛金	522,517	471,895
商品	186,967	199,339
短期貸付金	41,071	41,726
収納代行未収金	1,088,805	1,106,772
代位弁済立替金	425,120	477,375
その他	112,700	128,001
貸倒引当金	△347,299	△392,726
流動資産合計	3,076,744	3,088,243
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	123,610	121,897
土地	153,155	153,155
その他(純額)	10,977	9,405
有形固定資産合計	287,743	284,457
無形固定資産		
ソフトウェア	40,683	37,200
のれん	2,592	2,407
その他	18	18
無形固定資産合計	43,294	39,626
投資その他の資産		
投資有価証券	20,759	17,169
長期貸付金	385,047	384,804
敷金	48,041	44,054
長期未収入金	30,500	30,500
その他	14,816	14,422
貸倒引当金	△65,609	△65,638
投資その他の資産合計	433,555	425,312
固定資産合計	764,592	749,397
資産合計	3,841,336	3,837,640

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	195,325	165,552
未払金	1,090,951	1,113,177
未払法人税等	34,516	5,594
前受収益	431,711	481,720
短期借入金	15,000	—
1年内返済予定の長期借入金	50,916	56,960
債務保証損失引当金	99,440	100,540
賞与引当金	—	7,500
その他	252,837	223,833
流動負債合計	2,170,698	2,154,877
固定負債		
長期借入金	566,401	543,393
利息返還損失引当金	7,248	7,422
その他	1,815	600
固定負債合計	575,465	551,415
負債合計	2,746,163	2,706,293
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,432,534	1,432,534
資本剰余金	1,973,705	1,973,705
利益剰余金	△2,326,242	△2,270,116
自己株式	△3,529	△3,600
株主資本合計	1,076,467	1,132,522
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,054	△2,070
為替換算調整勘定	1,550	794
その他の包括利益累計額合計	2,605	△1,275
新株予約権	16,100	100
純資産合計	1,095,173	1,131,347
負債純資産合計	3,841,336	3,837,640

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)
営業収益		
売上高	528,543	743,440
その他の営業収益	346,444	354,158
営業収益合計	874,988	1,097,598
営業原価		
売上原価	383,338	562,617
その他の原価	101,876	92,231
営業原価合計	485,215	654,848
売上総利益	389,772	442,750
販売費及び一般管理費	495,007	413,571
営業利益又は営業損失(△)	△105,234	29,178
営業外収益		
受取利息	2,092	1,724
保険解約返戻金	36,501	—
為替差益	101	1,495
その他	686	1,693
営業外収益合計	39,382	4,914
営業外費用		
支払利息	515	1,424
貸倒引当金繰入額	67	1,744
その他	447	375
営業外費用合計	1,030	3,545
経常利益又は経常損失(△)	△66,882	30,548
特別利益		
投資有価証券売却益	3,380	—
新株予約権戻入益	—	16,000
事業譲渡益	—	15,538
特別利益合計	3,380	31,538
特別損失		
減損損失	208,961	—
固定資産除却損	—	367
貸倒引当金繰入額	40,000	—
投資有価証券評価損	26,880	—
その他	314	—
特別損失合計	276,155	367
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△339,658	61,719
法人税、住民税及び事業税	5,009	5,594
法人税等合計	5,009	5,594
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△344,668	56,125
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△344,668	56,125



(四半期連結包括利益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△344,668	56,125
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△24,998	△3,124
為替換算調整勘定	△193	△756
その他の包括利益合計	△25,191	△3,880
四半期包括利益	△369,860	52,244
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△369,860	52,244

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の決算短信の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライセンス
売上高						
外部顧客への売上高	376,864	346,216	—	93,184	21,649	36,838
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	376,864	346,216	—	93,184	21,649	36,838
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	7,672	△8,487	△32,088	△5,039	△5,995	△11,358

(単位:千円)

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	235	874,988	—	874,988
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	235	874,988	—	874,988
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	160	△55,135	△50,098	△105,234

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△50,098千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「プライズ」、「不動産関連」、「投資銀行」及び「コンテンツ」のセグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては「プライズ」で20,710千円(うちのれんの減損損失20,710千円)、「不動産関連」で134,906千円(うちのれんの減損損失131,238千円)、「投資銀行」で28,190千円(のれんの減損損失はなし)、「コンテンツ」で25,154千円(うちのれんの減損損失25,154千円)であります。

## II 当第1四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライセンス
売上高						
外部顧客への売上高	613,793	353,978	7,940	65,147	23,837	32,654
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	613,793	353,978	7,940	65,147	23,837	32,654
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	40,031	56,284	△10,722	1,354	△7,745	△11,988

(単位:千円)

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	246	1,097,598	—	1,097,598
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	246	1,097,598	—	1,097,598
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	171	67,385	△38,206	29,178

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△38,206千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分)

当社は、2021年3月25日開催の第21回定時株主総会において、資本金の額の減少及び資本準備金の額の減少並びに剰余金処分についての決議を受け、2021年5月14日付でその効力が発生しております。

1. 資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分の目的

当社は、2020年12月期末時点において3,220,023千円の繰越利益剰余金の欠損を計上するに至っております。

つきましては、繰越利益剰余金の欠損を填補し、財務体質の健全化及び税負担の軽減並びに配当可能利益の創出を図るとともに、今後の機動的かつ柔軟な資本政策を実現するため、会社法第447条第1項及び第448条第1項の規定に基づき、資本金及び資本準備金の額を減少したうえで、会社法第452条の規定に基づき、剰余金の処分を行うものであります。

2. 資本金及び資本準備金の額の減少の要領

(1) 減少した資本金の額

資本金の額1,432,534千円のうち、1,332,534千円を減少し、100,000千円といたしました。

(2) 減少した資本準備金の額

資本準備金の額1,328,740千円を全額減少し、0円といたしました。

(3) 資本金及び資本準備金の額の減少の方法

払戻を行わない無償減資とし、発行済株式総数の変更は行わず、資本金及び資本準備金の額のみを減少し、その全額をその他資本剰余金に振り替えいたしました。

3. 剰余金処分の要領

会社法第452条の規定に基づき、資本金及び資本準備金の額の減少の効力発生を条件に、その他資本剰余金を繰越利益剰余金に振り替えることで、欠損を填補するものであります。

(1) 減少した剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金 3,220,023千円

(2) 増加した剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金 3,220,023千円

4. 日程

(1) 取締役会決議日	2021年2月24日
(2) 株主総会決議日	2021年3月25日
(3) 債権者異議申述最終期日	2021年5月7日
(4) 効力発生日	2021年5月14日

5. その他の重要な事項

本件は、「純資産の部」における勘定科目の振替であり、純資産の額に変動はありません。